

報道発表資料の配付日時 6月13日(火) 15時00分

発表項目 (行事名)	2023年度日本生命財団「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」贈呈式		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>日本生命財団が行っている「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」の道内助成対象団体への贈呈式が開催されます。</p> <p>1 日時 令和5年(2023年)6月15日(木)10時00分～11時00分</p> <p>2 場所 ニューオータニイン札幌 (札幌市中央区北2条西1丁目1-1 Tel(011)222-1111)</p> <p>3 出席者 公益財団法人日本生命財団理事長 <sup>ほやし たけし</sup> 林 武史 様 日本生命保険相互会社 理事札幌支社長 <sup>かとう まさとし</sup> 加藤 雅敏 様 北海道保健福祉部子ども応援社会推進監 野澤 めぐみ 助成対象団体代表(13団体)ほか</p> <p>4 次第 ・開会 ・日本生命財団 理事長あいさつ ・北海道 子ども応援社会推進監あいさつ ・目録贈呈 ・助成対象団体代表者謝辞 ・閉会</p> <p>5 助成団体一覧 別添のとおり</p>		
参考	<p>・日本生命財団は、昭和54年設立時から児童・少年の健全育成を図るため、地域で活動する団体・グループに対し、その活動に要する物品を助成。 平成19年度からは高齢者の地域貢献・社会貢献活動を顕彰。 (令和5年度道内の助成予定)</p> <p>児童・少年の健全育成助成：9団体 410万円 生き生きシニア活動顕彰：4団体 20万円 計430万円 ※道内累計(S54～R4)：459団体 2億8,435万円</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	当日、会場で取材をいただき、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		
担当 (連絡先)	<p>主催担当者：日本生命保険相互会社札幌支社 支社担当部長 段野 圭太 Tel 011-251-9283 道担当者：保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課 課長補佐 坂本 聖一 TEL 011-204-5663 内線 25-773</p>		

2023年度 日本生命財団  
「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」助成団体一覧

児童・少年：9 シニア：4 計13団体 430万円

区分	団体名 (所在地)	助成内容	助成額 (万円)	代表者	贈呈式 出席者	活動概要	摘要	
児童・少年	1	輪来UCそらち (滝川市)	一輪車	36	はらだ あずさ 原田 梓	同左	一輪車を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	2	宮の森サッカースポーツ少年団 (札幌市)	サッカーゴール一式	42	なかざわ なおみ 中澤 直美	団長 前田 早苗	サッカーを通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	3	札幌び野球クラブ (札幌市)	野球用具一式	34	たかいし かつみ 高石 克美	同左	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	4	千歳向陽台ミニバスケットボール少年団 (千歳市)	バスケットボール用具一式	48	たかたま まさあき 高玉 昌昭	コーチ 台丸谷 洋介	バスケットボールを通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	5	柏ホエールズ (恵庭市)	野球道具(ピッチングマシン)	50	たかだ こうき 高田 晃季	同左	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	6	沼ノ端ジェッツスポーツ少年団 (苫小牧市)	ピッチングマシン一式	41	すがい しげとも 菅井 茂朋	同左	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	7	特定非営利活動法人PEACE&SMIRE (函館市)	パソコン・タブレット一式	58	たかはし しゅういちろう 高橋 修一郎	副理事長 高橋 明美	家庭の経済困窮などの格差により、学校教育以外でパソコンやタブレット端末を利用する機会が少ない子どもたちに対し学習支援を行っている。	
	8	名寄ベースボールクラブ (名寄市)	野球道具(ピッチングマシン)	60	なかむら こうじ 中村 耕司	事務局長 中村 龍矢	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	9	いちりんネットワーク (釧路市)	一輪車一式	41	まつだ えみこ 松田 恵美子	副代表 稲森 清美	一輪車を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
		計	410					
シニア	1	ゆる体操・リズムウォーキングサークル (奈井江町)	活動表彰	5	いづき みつお 伊月 光夫	代表 伊月 光夫	「ゆる体操」や「リズムウォーキング」を通じて、高齢者の健康増進活動に尽力している。	
	2	ふまねっと長沼 (長沼町)	活動表彰	5	そがべ よしさだ 曾我部 義貞	副会長 中野 謙蔵	「ふまねっと」を通じて、高齢者の健康増進活動に尽力している。	
	3	特定非営利活動法人救命のリレー普及会 (函館市)	活動表彰	5	たなか まさひろ 田中 正博	同左	救命手当講習の開催を通じて、函館市及び近隣市町村の救命率の向上と社会福祉に寄与した活動に尽力している。	
	4	釧路町生き生きサロンあけぼの (釧路町)	活動表彰	5	ちば あきお 千葉 秋雄	副代表 三浦 葉子	同じ地域に居住する高齢者の交流の場を設けるなど、地域づくりに尽力している。	
		計	20					
		合計	430					

## 児童・少年の健全育成助成(物品助成)の概要

・未来をになう子どもたちが、心ゆたかに成長することをめざして

日本生命財団は、1979年7月の設立以来、人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを目的として活動しております。  
児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育んでいく必要があります。  
このような活動に定期的かつ日常的に継続して取り組んでいる民間の団体・グループに対して、その活動に常時・直接必要な物品を助成しております。

おかげさまで財団設立以来45年継続して、全国1万4千を超える団体に助成

児童・少年の健全育成助成(物品助成)は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。  
助成金額は、1団体30万円～60万円です。  
助成物品は、助成対象活動を継続的に展開するためにはなくてはならない直接活用物品で、子どもたちが待ち望み、子どもたち自らが主体的・継続的に共有して活用する物品としております。

- ◆2023年度は、全国各地の257団体に総額1億2,762万円の助成を行います。
- ◆財団設立から45年の累計実績は、1万4千団体・89億円を超えております。

子どもたちの生きる力を育むさまざまな活動を応援

次のような活動を行っている団体に助成いたします。

<2023年度助成257団体の内訳>

「異年齢・異世代交流活動」	157団体
「自然と親しむ活動」	43団体
「子育て支援活動」	34団体
「フリースクール活動」	14団体
「療育支援活動」	9団体

情報誌「Fu-mi」の発行

当助成が多くの方々のお役に立つことを願い、助成制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容および助成物品の活用事例などをご紹介する情報誌「Fu-mi」を発行しています。

\*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以上

## 生き生きシニア活動顕彰の概要

元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動に対して

わが国は少子高齢社会を迎えており、元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動が注目されております。  
日本生命財団では、高齢者が主体となって行う地域貢献活動を顕彰し、地域活動の輪を広げてまいります。

2007年の制度発足からこれまでに3,244団体を顕彰

生き生きシニア活動顕彰は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。  
児童・少年の健全育成活動、地域づくり活動、高齢者支援活動、障がい者支援活動などの高齢者による“生き生きシニア活動”に取り組む民間の団体・グループに対して、1団体5万円の顕彰を行います。

- ◆2023年度は、全国各地の214団体に1,070万円の顕彰を行います。
- ◆2007年の制度発足からの累計実績は、3,244団体・16,220万円となっております。

さまざまな“生き生きシニア活動”を応援

次のような活動を行っている団体を顕彰いたします。

<2023年度顕彰214団体の内訳>

「高齢者支援活動」	104団体(高齢者向けサロン、訪問ボランティア等)
「地域づくり活動」	53団体(環境美化・環境保護活動、ボランティアガイド活動等)
「児童・少年の健全育成活動」	44団体(登下校時見守り活動、伝承芸能の継承等)
「障がい者支援活動」	13団体(手話・点訳・朗読ボランティア活動等)

情報誌「Fu-mi」の発行

当顕彰が多くの方々のお役に立つことを願い、顕彰制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容などをご紹介する情報誌「Fu-mi」を発行しています。

\*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以上